在沖縄米兵の女性暴行事件と日本政府による県への事件隠蔽に強く抗議する

「不屈」
No.602付録
高知版No.447
2024.8.14
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
高知県本部

発行責任者
森岡　幸一
TEL・FAX
088-841-0075

2023年12月に、沖縄嘉手納基地所属の米空軍第18航空団の兵長による少女誘拐、性的暴行事件が発生し、3月27日に起訴されました。約3か月後の6月25日、地元メディアが報道し、初めて明るみになりました。

その間、外務省、首相官邸ともに情報を把握しながら、沖縄県に報告もせず、23日の沖縄慰霊の日、沖縄県議選の後まで事実を隠蔽したことは、看過できない重大問題です。

沖縄県での米兵による女性暴行事件は昨年から今年にかけ5件発生していましたが、県警から県に報告がなかった事実も明らかになりました。昨年の段階でこれらの情報が共有されていれば、再発防止の対策が取られていた可能性もあり、人権と尊厳を踏みにじる許しがたい性犯罪を防ぐことができたかもしれません。政府の対応は断じて許されません。

7月4日に那覇市の県民広場で開かれた少女誘拐・性的暴行事件に対する緊急抗議集会

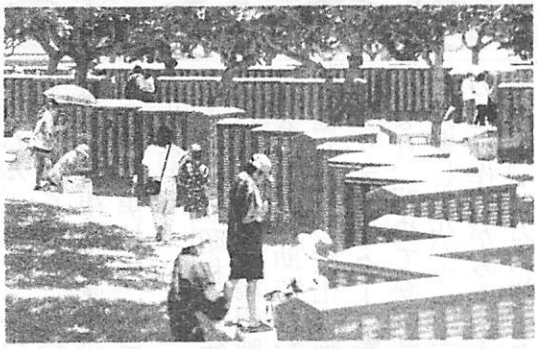
私たちは、女性の人権と尊厳を踏みにじった米兵犯罪と、政府の対応に強く抗議します。

1996年の「沖縄に関する日米特別行動委員会合意」で、米軍関係の事故について、「日本政府及び適当な地方公共団体の職員に対して、適時の通報が確保されるあらゆる努力が払われる」と明記されているにもかかわらず、合意に背くものです。

被害者への謝罪や完全な補償、政府の対応を含む事実関係を徹底解明し、米軍人・軍属への綱紀の粛正、再発防止策を実施すること、その具体的内容を公表することを求めるとともに、抜本的な日米地位協定の見直しと、その根源にある日米安保条約の廃棄を求めるものです。

2024年7月4日

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
中央本部女性部長　大石喜美恵
沖縄県本部女性部長　天久　正子



今年の6・23沖縄慰霊の日（琉球新報より）

不屈に生きた土佐の同志

信清悠久①

信清悠久（高知市中新町出身）

1910（明治43）年8月8日父権馬・母銀子の第4男として高知市中新町で生まれる。高知市立第五尋常小学校（現昭和小学校）を経て1923（大正12）年高知県立高知城東中学校に入学。同校4年、5年生の時同窓会雑誌「潮」第1号2号を編集。短編小説「源さんの死」を掲載。1928（昭和3）年同校を卒業、旧制高知高校を受験、早稲田大学ロシア文学科への進学希望を家で拒否されたため、数学の答案を白紙で提出して落ちる。

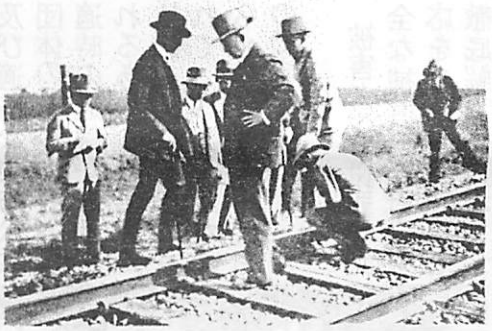
この年、無資格ながら父の経営する城東商業学校、江陽学校の国語・英語教員にさせられる。白樺派の作家達の作品や、夏目漱石などを読み耽る。トルストイ、ドストエフスキーにも親しむ。

学校の校友会雑誌「橘」を創刊、その編集に当たり「志賀直哉の“小僧の神様”について」という小論を書く。12月父権馬死亡。1929（昭和4）年高知新聞に短編「兆」「親戚の娘」を発表、白樺派の長興善郎の批評を仰ぐ。

その年、旅行で上京。長興善郎、武者小路実篤、千家元麿らに会う。その際長興善郎から次女万里子の家庭教師兼書生をやらないかといわれ欣喜雀躍。

帰高後、長興善郎の紹介で同氏の元書生某氏に会う。そのおり、いつまでも白樺派などに低迷せず、マルクス主義を勉強すべしと諭され感ずるところあり、雑誌「戦旗」を購読、また蔵原惟人「芸術と無産階級」を読んで、目の開ける思いがし、それ以来長興善郎とも絶縁して、専らプロレタリア文学やマルクス主義の文献に親しむ。

1930（昭和5）年従妹鍋島君恵と結婚する。1931（昭和6）年教員を自発的に退職し、槇村浩、弘田競、その他らと日本プロレタリア作家同盟（ナップ加盟）高知支部を結成。10月ナップが日本プロレタリア文化連盟に改組されると同時に、その高知地方協議会を作家同盟支部を中心に組織する。この年9月「満州事変」起こる。



1932（昭和7）年初め、非合法の日本共産青年同盟にも加盟し、反戦運動にも参加する。4月21日一斉検挙を受け、憲兵隊留置場に入れられ、約半年後に起訴されて、高知刑務所未決房に収容される。

1933（昭和8）年4月治安維持法違反の罪名で懲役2年、執行猶予5年の判決を受けて出獄。その年渡満。在満中の義兄の庇護を受けながら、チチハル、ハルビン、白城子、古林を転々とし、常に憲兵の監視下に置かれる。その間長男杜夫、次男牧夫生まれる。

1938（昭和13）年新京の株式会社・満州映画協会に入社、助監督などを経て記録、文化映画のシナリオライター、監督となり、初めて映画制作に従事し「光の少年工」その他を作るがみるべき作品なし。一方満州日々新聞、ハルビン日々新聞に「遠い街」「黄玉欄」その他の短編小説を書く。その間に教育召集を受け、孫呉の輯重隊に一ヶ月入隊するが実戦に加わったことなし。毎日のようにピンクを食う。

1941（昭和16）年日本は太平洋戦争に突入する。

1943（昭和18）年北京の華北映画株式会社「満映の子会社」に転社、企画室首席を経て制作部長となる。

【次号につづく】

沖縄で進行中の基地開発の実態に迫ったドキュメンタリー

◆戦雲（いくさふむ）を観て

先日、筆者は「戦雲（いくさふむ）」という映画を観る機会を得た。現在沖縄県で進行している基地開発の実態に迫ったドキュメンタリーで、同県の島々で暮らす人々の思いが取材されていた。今回は、その感想を述べたい。

本作は今年公開されたばかりであり、それだけに、その取材内容は極めて新しい。まさに沖縄で繰り広げられている最新の事情がレポートされており、そこに映し出された実態は、まさに「新たな戦前」といえるものであった。

まず、映画は与那国島から始まる。これまで軍隊のなかった島に2016年に自衛隊駐屯地が置かれ、そのための選挙や住民投票で島民は分断された。台湾に近いこの島では、「台湾有事」を想定した日米共同訓練もここ数年で行われている。戦車や武器が次々と持ち込まれることに反発する島民の声が、作品内では紹介されていた。さらに、与那国町に何も知らされないままミサイル基地まで配備され、町長はそれを容認した。島民を無視してなし崩し的に武力を導入する権力に対し、怒りを覚えたものである。

次に、舞台は宮古島へと移る。ここでもミサイル基地開発が進められており、2021年には弾薬庫も完成し、実際にミサイルが運び込まれた。反対する住民たちは体を張ってこれに対抗していたが、その思いは無機質な兵器の前に掻き消された。これが、憲法九条、非核三原則の国のすることかと情けなさを通り越して恐怖を感じた。

さらに、同じくミサイル基地開発が計画された石垣島にも目を向けると、ここではかつて陸上自衛隊の配備計画をめぐる住民投票を求める運動が展開されていた。基地を作る前に、島民の意見を聞くべきというわけである。だが、住民投票を求める署名は条例が定めた要件をはるかに超えていたにもかかわらず、議会はこれを否決し、条例のルールを変える形で潰した。完成した自衛隊基地の隊員に対して島の高齢女性が「なんで列強国同士が喧嘩するのに、私たちこんな小さな島々の人たちがこんなに苦しい思いをしなければならないのか」と問いかける姿が印象的であった。

他にも考えさせられるシーンは多々あったが、一つ確実に言えることは、政府は今、「米軍とともに戦争する準備」を本気で進めているということだ。それがミサイル基地の配備だけでなく島民の避難計画にも表れていることが、本作では語られていた。避難といえばいかにも住民のためのように聞こえるが、そもそも戦争をしなければよい話である。

政府が想定する「台湾有事」は、決して「中国の脅威から日本を守ろう」というものではない。中国政府と台湾が武力衝突となれば、その原因は「台湾独立」しかないが、その台湾の世論は独立など望んでいないのである。つまり、中国政府と台湾の間に「火種」など存在せず、日米双方が中台関係をこれ幸いと戦争を煽っているのが現状なのだ。日本が武力攻撃に晒されるとなれば、「日米による中国への攻撃に対する中国からの反撃」以外にありえない。日米側から煽り仕掛ける戦争のための準備が今、沖縄で進められている。これはもはや「自衛」でもなければ「国防」でもない。

（森本琢磨）

本作は、9月21日（土）にも「こうち男女共同参画センター・ソーレ」で上映される（①9:30～、②14:45～）。本誌読者にも、ぜひ観ていただきたい。

治安維持法国賠同盟 2024年女性部ニュース

NO. 1
2024年6月20日

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟女性部
TEL03-5842-6461　FAX03-5842-6462

第33回全国女性交流集会に全ての都道府県から参加しましょう！

第33回全国女性交流集会
◆日時　2024年11月10日(日)～11日(月)
◆会場　蒲郡温泉郷　ホテル竹島

記念講演　今につながる治安維持法体制に決着を
～ まだ生きている治安維持法（仮題）

講師は、治安維持法国賠同盟中央本部副会長の小松実さんに決まりました（右・写真）。各地・各所での講演が好評を博しています。「いい話を聞いた。知らないことがずいぶんあると思った。来てよかった」「戦争する国へと暴走する政治の『歪み』がなぜ生まれたかよくわかった」等の感想が寄せられています。来年の治安維持法施行100周年という節目を、治安維持法がにどのように「悪法」であったのか、いま治安維持法体制をどのように打破していくのかなど、お話しいただきます。

■治安維持法犠牲者家族の証言・報告

治安維持法犠牲者小松ときさんのご子息・小松伸哉さんが語ってくださいます（講師と同じ小松の姓ですが、縁戚関係はありません）。ときさんは歌人として戦時下の弾圧について多くの歌を遺しています。

※ふきすさぶ 嵐の音を聞き居つつ　我 留置場に母となるらし

※髪引かれ 頬なぐられても 我が口は堅く閉ざして薄笑いおり

女性が「無能力者」とされた時代にあって、平和と人権の社会をめざし、不屈のこころざしをもってたたかった「母」を語っていただきます。

■ビデオ上映　NHKや北海道テレビが、今年の国会請願に参加された102歳の菱谷良一さんを取材し、報道しました。

ビデオ上映と菱谷さんを支える北海道の女性が発言する予定です。（写真は、今年5月15日、国会請願時、多くのメディア

◆その他、分科会など決まり次第、お知らせいたします。
ご意見やご要望をお寄せください。
◆第32回全国女性交流集会報告集、ご活用ください。

☆女性部、青年部
全国女性交流集会
11月10日(日)～11日(月)
愛知県蒲郡温泉郷
ホテル竹島

☆財政
同盟の運動は会費、募金で支えられています。会費の請求書が届きましたら、ぜひ入金をお願い致します。

〈同盟日程〉
○県母親大会
7月28日(日)9時30分～16時　ソーレ
○8・15平和のつどい
8月15日(木)10時～
人権啓発センター

9月幹事会
9月12日(木)14時～
草の家

○編集後記
大いに盛り上がったパリオリンピック。一方でやまない戦火。平和の祭典を心から楽しめる世界にはまだ遠い▼続く猛暑、皆さまご自愛下さい。(M)

7月幹事会報告

8・15は人権啓発センターで

☆同盟員　249名
退会者1名

☆署名
（個人）　60筆
（団体）　筆

☆県本部役員・幹事の任務分担を決めました。

☆同盟四国交流集会
10月19日(土)～20日(日)
場所　徳島県板野町
※案内が届いていません。届き次第お知らせします。